

## 科学の戦争加担を再び繰り返さないために！

### — 池内了さん (宇宙物理学) 講演会 —

2017年8月11日(「山の日」)

5月3日(「憲法記念日」憲法施行70年)、安倍首相は「2020年に改定憲法施行」を宣言しました。2015年9月の「安全保障関連法」の可決や2017年に入ってから「共謀罪」成立の動きなど、安倍政権はいよいよ「戦争のできる国」への動きを加速しています。

そこで不可欠なのは、民間の協力です。経済界を始め教育など、既に様々な分野における布石が打たれています。ここに至って全国の大学や研究所における科学(医学)の分野へも触手が延びつつあります。それは防衛相の研究費制度予算が、2015年度3億円、16年度6億円に対し、17年度には一挙に110億円に引き上げられたことにも明らかです。

戦時中、関東軍七三一部隊(人体実験に基づく生物・化学兵器開発)を始め、理化学研究所(仁科芳雄氏)や京都帝国大学(荒勝文策氏)における原爆の研究、東京帝国大学に造兵学科や火薬学科が置かれるなど、科学・医学は率先して戦争に協力しました。戦後の1949年に創設された“日本学術会議”(約84万人の日本の科学者の代表)は、戦争中の科学の戦争加担を反省し、1950年「戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わない」、1967年(直接には、ベトナム戦争中米軍から資金を受けたことに関連)「軍事目的のための研究を行わない」とする声明を決議しました。

また今春の同会議総会においても、「両声明を継承する」との新声明を発表しています。その理由として、「学問の発展には、自主性・自律性・公開性が不可欠であるが、軍事研究では三要件が保障されない」というものです。その一方、「軍民両用(デュアルユース)」(軍事にも使えるが民間にも役立つ)、「自衛目的のため」(軍事研究において普通は「攻撃目的」と表現しない)といったことが免罪符になり、「学問の自治」の名の下に各大学の方針は個々に決定すると、軍事研究に踏み切る大学も出てくる可能性があります。

既に、琉球大や広島大、新潟大、法政大は応募しない方針をとり、高槻地元の関西大学も応募しないと決定しました。このような状況下、私たち市民も関心を持ち、警戒の目を向ける絶好の機会として、是非講演会に御参加ください。

#### 池内了(さとる)さん

1944年生。宇宙物理学、名古屋大学名誉教授。

科学技術の戦争(軍事)への加担に一貫して反対し、警鐘を鳴らし続ける。デュアルユース(二面性)の性格を有するいかなる科学技術も、それが防衛省からの予算で行われる限り、軍事優先にならざるを得ないと主張し、軍から研究のための資金援助を受けることを「研究者版経済的徴兵制」と呼び、警告を発している。

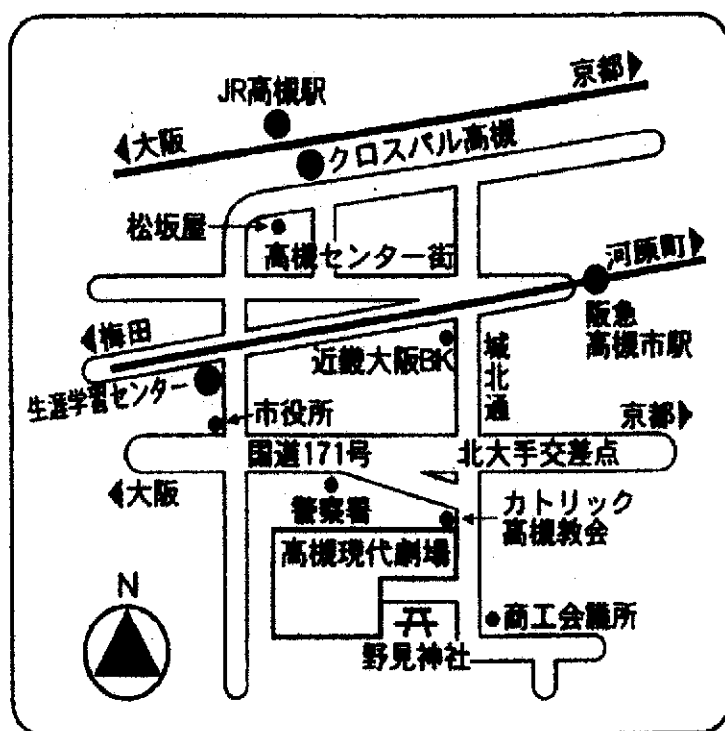
著書：『科学者と戦争』(岩波新書)、『科学・技術と現代社会』(みすず書房)

『大学と科学の岐路—大学の変容、原発事故、軍学共同をめぐる』(リーダーズノート出版)、

『科学の考え方・学び方』(岩波ジュニア新書)、その他多数

日時 2017年8月11日(金、「山の日」)午後1時30分~4時  
場所 高槻現代劇場・文化ホール2階第1・第2展示室  
高槻市野見町2-33 (TEL:072-671-1061)  
資料代 500円

内容・講演 池内了さん  
「科学の戦争加担を再び繰り返さないために！」  
・発言 大学関係者(予定)  
・司会 山口研一郎(現代医療を考える会代表、医師)



阪急高槻市駅より徒歩5分  
JR高槻駅より徒歩12分

賛同団体・個人:

全国保険医団体連合会(本部・東京)、大阪府保険医協会、京都府保険医協会、兵庫県保険医協会  
十五年戦争と日本の医学・医療研究会、「子ども脱被爆裁判」を支える会・西日本  
ふくしま共同診療所(布施幸彦院長)、市民の意見30関西  
山田さんを支える会(「日の丸・君が代」不起立)  
近藤孝氏(紀和病院名誉院長)、野瀬博之氏(野瀬歯科)

主催:こどもたちと考える「戦争と平和」展 in 高槻・島本実行委員会(090-9870-3709)  
共催:現代医療を考える会

(TEL:072-690-5265 FAX:072-690-5266、やまぐちクリニック)